

令和2年度幼稚園教諭免許法認定講習等推進事業 成果報告書

団体名：学校法人城南学園 大阪総合保育大学

1. 事業の実績

(1) 事業目的

幼児教育の質の向上には、教員の資質能力の向上が重要であり、小学校以上と比較して離職率が高く若手教員が多い幼稚園の職場において、園内における人材育成の中核を担う中堅教員の育成は喫緊の課題となっている。特に、2019年10月から幼児教育の無償化が実施され、幼児教育施設においては公的支援に見合った質の高い幼児教育を提供しているかどうか、これまで以上に社会的責任が求められることとなる。むしろ、保護者にとっての無償ということだけではなく、小学校の義務教育に近い子どもにとっての幼児教育の質保障を目指すことが重要と考える。このような状況下において、幼児教育の質の向上を図ることは不可欠である。教育職員免許法では、二種免許状を有する教育職員は一種免許状へ上進する努力義務がある。しかし、現状では、中堅教員ほど二種免許状の保有率が高いといえる。

以上のことから、本学および大阪教育大学の教育機能を活用し、幼稚園教諭一種免許状の取得機会を拡大することにより、中堅教員のキャリアアップ及び幼稚園教員の専門性の向上を図り、大阪府における幼稚園教諭の専門性の向上を図ることを目的とする。

(2) 事業概要

本事業は、大阪総合保育大学および大阪教育大学の指導のもと、6講座(12単位)を開講した。受講対象は、10単位で上進可能な在職12年以上の者とした。講習は現場の実情や園長会等の希望により令和2年8月(土曜・日曜・お盆休み・夏季休業期間)に実施した。実施にあたり、事前に大阪府および大阪市の私立幼稚園連盟、大阪府・大阪市国公立幼稚園長会、大阪府幼児教育センターを通じて周知を行った。講義内容については、同一科目を3人でオムニバスにし、特に、現場の実務経験者を講師に加え、より理論と実践の往還が図れるよう工夫を加えた。今年度も面接講義であったが、新型コロナウイルス感染症対応として、オンライン実施も併用して行った(感染状況に応じ、その都度、受講者の希望対応とした)。

実施詳細は下記の通りである。

No.	日時	開設科目名	科目の概要	講師名
2	8月11日(火) 9:00~18:00	人間関係領域指導法Ⅱ (R2認定講習)	幼稚園教育要領に示された領域「人間関係」のねらい及び内容について、幼児の姿と保育実践とを関連させて学び、理解を深める。幼児の発達にふさわしい主体的・対話的で深い学びを実現する保育を具体的に構想し、実践する方法を身に付ける。	大阪教育大学 教授 戸田 有一
	8月12日(水) 9:00~18:00			大阪総合保育大学 講師 金重 利典
	8月13日(木) 9:00~18:00			大阪教育大学 准教授 中橋 美穂
5	8月14日(金) 9:00~18:00	保育者論 (R2認定講習)	「保育者とは何か」について諸側面から理解を深め学ぶ。保育者の協働や専	大阪総合保育大学 准教授 高田 昭夫

	8月15日(土) 9:00~18:00		門的成長について理解を深め、子どもへのかかわり方や地域社会とのかかわりや発達といった観点から学び、保育者の役割を身に付ける。	大阪総合保育大学 教授 大方 美香
	8月16日(日) 9:00~18:00			大阪総合保育大学 教授 阿部 和子
6	8月17日(月) 9:00~12:15	表現領域指導法Ⅱ (R2 認定講習)	幼児の表現活動について保育者としての視点を持ちながら実践に向けた取り組みを学ぶ。遊びを通して行われていく側面を理解し、領域表現と他の領域の関係にも気づき、学びを深めながら幼児期の表現活動を支援するための知識や技能、表現力を総合的に身に付ける。	大阪総合保育大学 教授 松岡 宏明
	8月18日(火) 13:00~18:00			和歌山大学 教授 丁子 かおる
	8月19日(水) 9:00~18:00			大阪教育大学 准教授 加藤 あや子
	9月19日(水) 9:00~18:00			学校法人共立学園 幼保連携型認定こども園 新光明池幼稚園 園長 内藤 真希
3	8月20日(木) 9:00~18:00	環境領域指導法Ⅱ (R2 認定講習)	領域「環境」は「周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う」ための領域であり、好奇心・探究心の育成が重要である。そのため、子どもの発達に応じたねらい・内容の理解を深めるとともに、指導・援助、教材研究の方法を実践的に学び、身に付ける。	大阪総合保育大学 教授 瀧川 光治
	8月21日(金) 9:00~18:00			大阪総合保育大学 准教授 高根 栄美
	8月23日(日) 9:00~18:00			学校法人庄内神社学園 幼保連携こども園 庄内こどもの杜幼稚園 副園長 北島 孝道
1	8月24日(月) 9:00~18:00	健康領域指導法Ⅱ (R2 認定講習)	幼稚園教育要領に示された指導場面を想定した演習を行う。健康領域の要点を踏まえた実践指導ができるようになることを目指す。先行研究等から、現在の子どもの課題を学び、その問題について探究し実践する方法を身に付ける。	大阪総合保育大学 准教授 清田 岳臣
	8月25日(火) 9:00~18:00			学校法人ひじり学園 せんりひじり幼稚園 園長 安達 謙
	8月26日(水) 9:00~18:00			学校法人成城学園 幼保連携型認定こども園 日吉幼稚園 園長 水谷 豊三
4	8月27日(木) 9:00~18:00	幼児と言葉 (R2 認定講習)	領域「言葉」の指導の基盤となる、幼児が豊かな言葉や表現を身に付け、想像する楽しさを広げるために必要な基礎的知識等を身に付ける。	大阪総合保育大学 教授 田窪 豊
	8月28日(金) 9:00~18:00			常磐会短期大学 准教授 中村 妙子
	8月29日(土) 9:00~18:00			大阪総合保育大学 教授 小椋 たみ子

(3) 成果（事業の実績の説明）

1) 広報、周知の観点

今年度は、コロナ禍という予想できない状況下での実施となり、受講申し込み者には、受講に必要な資料や講義資料等を事前に送付した。このことは、面接講義が実施の基本としながら、緊急事態等の発令等に備えたオンライン受講変更者への対応及び受講の事前準備として必要であると考えた。受講者からは、事前に受講内容がイメージできたこと、急な体調不良で新型コロナウイルス感染症予防のためオンライン実施に変更する場合、助かったと好評であった。また、昨年度の実績により、早くから大阪府・大阪市の私立幼稚園連盟、大阪府・大阪市国公立幼稚園長会、大阪府幼児教育センターと連携して広報及び周知すること

ができた。コロナ禍でなければ多くの受講者が見込めたが、少人数でも、昨年度の補講的位置づけとした。コロナ禍における園長等の理解を得るため、募集人数は50名に減らし三密を避けることを優先して実施した。

2) 免許状上進の機会の拡大と講座の充実

大阪総合保育大学及び大阪教育大学は、既に地域連携として幼稚園教諭免許法認定講習推進事業を平成31年度に実施し、2年目の実施であった。平成31年度に実施した幼稚園教諭免許法認定講習での実績は、講習申し込み135名（内単位取得者121名）、上進可能者96名、約79%の上進が可能となった。令和2年度は、5月の緊急事態宣言を踏まえ、日程は夏季休業期間を中心とした短期間実施で企画した。これは現場の実情を理事会で図った結果である。コロナ禍ということで受講人数を制限した。昨年度未履修科目者25名（121名－96名）及び潜在的履修希望者25名を想定し、定員は50名とした。広報上もそのように周知した。本事業への申し込み人数は、講習申し込み33名（内単位取得者は32名）、10単位以上の取得者（上進可能者）32名、約97%の上進が可能となった。免許状上進の機会の拡大としては、昨年96名、今年度32名、合計128名の上進可能者を2年間で輩出した。短期間で一定の成果を出していると考え。この成果実績は想定内であり、事業成果としても評価に値すると思う。

講座内容については、昨年度同様、各科目3日間集中講義をオムニバスで講師を配置、特に実践者を組み込むことで理論と実践の両面から講義を組み立てている。開講受講者には好評である。また、この6講座は、再課程申請時に新たに発生した科目群である。すなわち、受講生にとっては養成校で取得していない新規科目であり、学び直しに役立っている。今年度はコロナ禍ということで、グループワークを取り入れることができないため、各講師の努力により事前配布資料の充実及びアクティブラーニングを取り入れる工夫を行った。

受講者は、コロナ禍に関わらず、面接講義実施及びオンライン実施、共に全員が熱心であった。12年以上を対象としたが、受講者の年齢層は「30代27%（31%）、40代43%（47%）、50代29%（21%）、60代1%（1%）」と幅があり、資料作成など次年度に反映する予定である。（）は平成31年度の％であるが、ほぼ同じ傾向である。

受講後のアンケート調査結果（資料参照）は、昨年度と同様、満足度の高い結果となった。また面接講義の実施とオンライン実施では、満足度の差はほとんど見られず、各講師の努力の成果と考える。講義内容については、同一科目を3人のオムニバスであり、「現場の実務経験者が講師にいて理論と実践の往還が図れるような工夫がありわかりやすかった。」「理論的なこともわかり、ためになった。」「現場で役に立っている。」等の声が寄せられている。ただし、3%ほどの「あまり満足しなかった」回答への改善を検討中である。

講義内容は満足度だけではなく、例えば、「現場が直面する諸状況や教員の課題意識を反映して行われていた」という質問に対して面接講義実施では「十分満足した・十分成果を得られた（65%）」、「満足した・成果を得られた（32%）」であり、97%の満足度を得てい

る。オンライン実施では、「十分満足した・十分成果を得られた（64%）」、「満足した・成果を得られた（32%）」であり、96%の満足度を得ている。他の質問項目「講習のねらいや到達目標が明確であり、講習内容はそれらに即したものであった」、「受講生の意欲がわくような工夫をしていた」、「適切な要約やポイントの指摘等がなされ、説明がわかりやすかった」、「配布資料等使用した教材は適切であった」もほぼ同じような満足度結果であった。受講にあたり詳細を記した要項冊子を作成し事前配布したことや、各自の出席簿も別途作成し管理運営にあたったことは、受講者の啓発や満足度につながったと考える。

今回、夏季休業期間に実施したことは良かったと考える。運営にあたっては、出席管理やレポート課題の管理が厳密に行えた。トップツアーに申込業務を委託したことで、事務手続きの煩瑣が軽減された。特に、入金状況の確認作業が合理化できた。

大阪府および大阪市の国公立幼稚園長会、大阪府および大阪市の私立幼稚園連盟等、大阪府幼児教育センターとの連携協力により、実施時期や実施期間、受講料や講義内容は全て事前ヒアリングのニーズに合わせており、今の状況は高い満足を得られる実施方法だと思う。結果として、上進者の成果につながっている。

3) 幼稚園団体、自治体、大学、園等との連携の観点

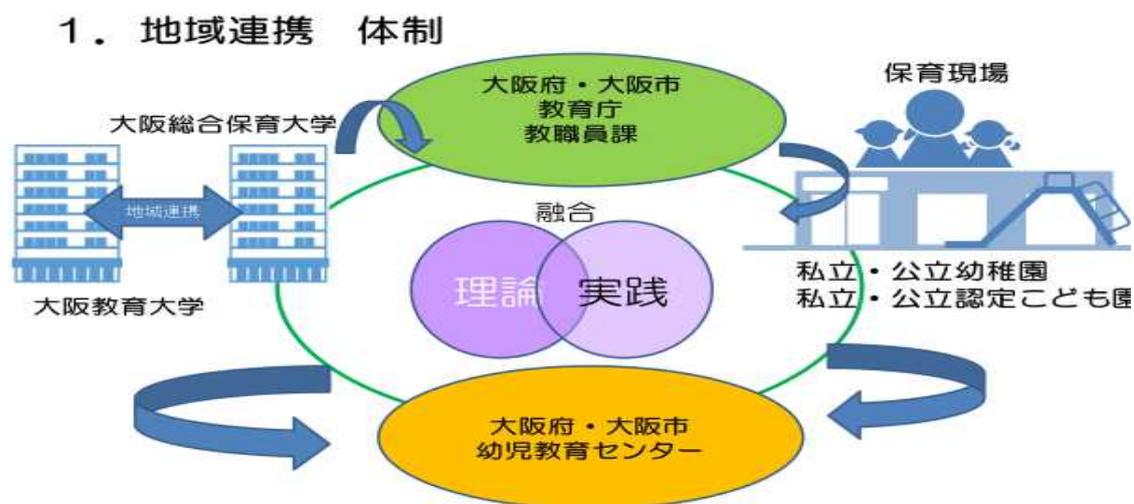
昨年度より、大阪総合保育大学と大阪教育大学の「地域連携」として事業を実施してきた。また、次の図（1. 地域連携体制）に示すように大阪府および大阪市の国公立幼稚園長会、大阪府および大阪市の私立幼稚園連盟等、大阪府幼児教育センター等と連携しながら検討委員会を開催し実施してきた。広報及び周知、日程調整、カリキュラムの内容、講師選定、ニーズ調査等、すべて連携協力によって実現している。各現場への周知等（チラシ等の配布も含む）は、事前に各理事会で承認を得てから実施するように心がけてきた。そのため、各園からの受講者参加は円滑であり講習に出してもらいやすい雰囲気となっている。このことは受講者にとって何より重要な事項と考えている。「大阪の幼児教育の質向上を目指す」という目的に向かう気持ちは一つであり、そのための理解は進んでいると考える。次年度以降も連携しながら実施を検討していきたい。

特に、講習の日程調整、内容上の検討等を連携して行う。大阪府幼児教育センターとはアドバイザー研修等との重複を、大阪府私立幼稚園連盟とは10年研修等との重複を避けるよう、日程や内容上の検討を実施している。

大阪府・市における地域連携を通じた「幼稚園教諭の専門性向上に資すること」は、いかにして幼児教育の理論と実践を融合することかにある。そのため、大阪府幼児教育センターと大阪総合保育大学は、「幼児教育アドバイザー・ガイドブック ―子どもの成長を願い、ともに学ぶ仲間と実践を楽しむために―」を令和元年度に作成、「幼児理解に基づいた評価」の紹介や「研修紹介」を記載している。また、大阪総合保育大学は、大阪府教育庁市町村教育室地域教育振興課地域連携グループと「非認知能力を育むためのリーフレット」を令和元年度に作成した。一方、大阪府私立幼稚園連盟と大阪教育大学はECEQなどを通じた公開保

育の交流や助言を行っている。したがって、その英知を生かした上進講習は契機であり、重要なことは大阪府・市における地域連携を通じた「幼稚園教諭の専門性向上に資すること」であり、「幼児教育の質向上」を目指すことを目的とした連携協力である。

以下の図に示すように、「幼児教育における理論と実践の融合」を目指し、大阪府の教育センターや大阪府私立幼稚園連盟と連携している。



4) 事業設計の観点（講習実施日程・期間、提供単位数、価格等）

コロナ禍において、実施日程・期間については状況を見ながらの判断となり、慎重に進めることが求められた。5月の緊急事態宣言を踏まえ、日程は夏季休業期間を中心とした短期間実施で企画した。これは現場の実情を理事会で図った結果である。コロナ禍であり預かり保育の実施拡充により現場の休暇は少なくなっていること、土曜日も出勤が多くなっていること等を鑑みた。6講座開講したが、短期間で10単位取得という上進に寄与することはできた。

毎回の検温、健康確認、終了時の消毒、三密を避けるため大教室での実施、座席指定など配慮に配慮を重ねて実施した。事前に健康チェックシートの配布等及び感染症対策内容周知を行った。面接講義の実施を前提としたが、コロナ禍であり、自粛等の申し出対象者にはオンライン実施を提供した。結果として、新型コロナウイルス感染者及び濃厚接触者を1人も出すことなく終えることができた。安全に開催できたことにより、受講者の満足度も高く終えることができた。

受講料は、昨年同様、何科目受けても5,000円とした。この価格は、昨年同様、受講者の満足を得ている。補助金を得ていることは、いかに上進者を増加し幼児教育の質向上に貢献するかであると考え、受講者の参加しやすいこと、単位取得をためらわないことをめざして

いる。昨年同様、トップツアーズに参加費入金処理及び事前問合せ等の業務委託をした。大学事務への負担や問い合わせがなく、無理なく事業の成果も得られたと考えている。

次年度に向けては、受講ニーズ調査をもとに実施の検討を行い、より速やかな実施準備、受講者への周知および確保、上進者の増加、円滑な運営を検討していきたい。そのためにも、両大学での連携を強化し、さらに大阪府下の養成校への協力要請なども試みていきたいと考える。

指導大学：大阪総合保育大学・大阪教育大学 会場：大阪総合保育大学

講習人員(会場ごとの合計)：33名(実数)／延べ130人(延べ数)

No.	免許状の種類	免許法施行規則に定める科目区分等		左記に対応する開設科目名	授与単位	講義・実験等区分及び時間数	成績審査の方法 ①合格に必要な出席時数 ②成績審査方法 ③評価段階(合否区分)	受講者数 授与単位数(合計)	学級数
		科目	各科目に含める必要事項						
1	幼一種免	教科	言葉	幼児と言葉 (R2 認定講習)	2	講義 30h	①24h以上 ②授業への参加度70%、 最終レポート30% ③60点以上を合格とする	25人 50単位	1
2	幼一種免	教職	環境領域指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)	環境領域指導法Ⅱ(R2 認定講習)	2	講義 30h	①24h以上 ②授業への参加度70%、 最終レポート30% ③60点以上を合格とする	24人 48単位	1
3	幼一種免	教職	表現領域指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)	表現領域指導法Ⅱ(R2 認定講習)	2	講義 30h	①24h以上 ②授業への参加度70%、 最終レポート30% ③60点以上を合格とする	23人 46単位	1
4	幼一種免	教職	人間関係領域指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)	人間関係領域指導法Ⅱ(R2 認定講習)	2	講義 30h	①24h以上 ②授業への参加度70%、 最終レポート30% ③60点以上を合格とする	27人 54単位	1
5	幼一種免	教職	健康領域指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)	健康領域指導法Ⅱ(R2 認定講習)	2	講義 30h	①24h以上 ②授業への参加度70%、 最終レポート30% ③60点以上を合格とする	29人 58単位	1
6	幼一種免	独自	大学が独自に設定する科目	保育者論 (R2 認定講習)	2	講義 30h	①24h以上 ②授業への参加度70%、 最終レポート30% ③60点以上を合格とする	2人 4単位	1

(4) 今後の課題・展望

令和2年度に実施した本事業の課題および展望は、次の4点が挙げられる。

1) 開講準備と受講者への周知

昨年度の教訓を踏まえ、文部科学省からの事業公募後の申請準備、独立行政法人への上進講習認可申請など、おおむね滞りなく計画的に進められた。学内での開催日程及び講義担当者の検討に最低3ヶ月程度は要するが、昨年度の実績があり円滑に決定できたことは幸いであった。ただ、コロナ禍となりオンライン授業実施やカリキュラム変更等があり、さらには緊急事態宣言への対応、また年度末に向けては入試業務もあり実施後の取りまとめが煩

瑣となったことは課題である。

受講料 5,000 円の安さやトップツアーズに参加費入金処理の委託をしたことは、参加者の利便性に効果を発揮した。

今年度はコロナ禍となり緊急事態宣言が出されるなど大阪府下での開催は予想できない状況となったが、感染症対策を十分に行い、結果的には滞りなく実施することができ、受講者の満足度も高かった。

2) 講座開始から逆算した検討委員会の検討、講習認定申請、受講者募集等のスケジュールの観点

昨年度の実施経験と地域連携の協働体制の確立により検討委員会の検討、講習認定申請、受講者募集等のスケジュールについても、円滑に進められた。大阪府および大阪市の国公立幼稚園長会、大阪府および大阪市の私立幼稚園連盟等との連携もあり、受講者募集についても滞りなく行えた。募集人数の変更についても、十分に理解が得られた。トップツアーズに委託した業務についても、令和元年度の継続であるため、問題は生じなかった。

本事業は、令和元年度に引き続き2年目の実施となる。1年目の教訓を踏まえて工夫した事項は、①迅速な講習認定申請手続き、②的確で協働した広報活動、③一括した講義資料の配布、④申請手続き方法の徹底した周知、⑤次年度の受講ニーズ調査の実施である。

結果として、①迅速な講習認定申請が行えたことで、②大阪府および大阪市の国公立幼稚園長会、大阪府および大阪市の私立幼稚園連盟等の協力を得て速やかな広報活動ができた。また受講者には講座開始前に、③全科目の講義資料を郵送により配布でき、受講意欲の啓発につながった。また昨年度は講座終了後も、申請手続きについての問い合わせが続き、また書類の有効期限が切れて再発行依頼などがあった。そのため、④今年度は最初から複数回、申請手続きの周知をおこなった。さらに、⑤次年度の受講ニーズ調査を実施したことで、今後の認定講習実施の長期的見通しが持てた。

コロナ禍ということで受講人数は50名に制限し、昨年度、未履修科目のある方を優先した。今回の申し込み者数は33名である。受講者33名の勤務先は、公立幼稚園19名、公立こども園1名、私立幼稚園5名、私立こども園8名であった。昨年は私立幼稚園が圧倒的に多数であったが、今回は公立幼稚園の参加が多く見受けられた。保育者論（R2認定講習）はお盆日程であり、10単位の必須でないことから今回の最終受講者は0名であったことが残念であった。次年度は、通常研修と連携しながら実施していきたいと考えている。

展望としては、今回、手探りで進める中で、大阪府および大阪市の国公立幼稚園長会、大阪府および大阪市の私立幼稚園連盟等、大阪府幼児教育センターからの協力が得られた。そこで、次年度も以降も、国公立幼稚園、私立の幼稚園・こども園と連携しながら、受講生への周知の迅速化を進めていきたい。

3) 免許状上進の機会の拡大と講座の充実

中堅教員の一周免許状保有率を上げるためにも、上進の機会を拡大することは必要となっている。そのため、開講日程の調整、受講料、講座内容などの工夫は課題となっている。可能な限り、他の研修と連携しながら実施していけたらと考えている。

今年度は、事前に大阪府私立幼稚園連盟との調整の中で、夏季休業期間を中心に6講座開講ができたこともあり、上進可能となる人数も受講者の8割に上った。また受講料も、何科目受けても5,000円としたことで受講機会の拡大に貢献できた。なお事情により申し込みはしたが参加できなかった方には、全員資料を送付し、意欲の保持に努めた。さらに講座内容についても、オムニバスで講師を配置し、理論と実践の両面から講義を組み立てることやグループワークやアクティブラーニングを取り入れるなど工夫をおこなった。

次年度以降も、受講者の意見を参考に、上進の機会の拡大と講座の充実を図っていく。各授業アンケート項目と資料は、各講師が作成して実施した（ただし、講義によっては回収を行った）。

4) 今後の展望

次年度に向けては、大阪府および大阪市の国公立幼稚園長会、大阪府および大阪市の私立幼稚園連盟の協力を得て、すでに「受講ニーズ調査」を実施した。結果、回答者数1166人中、希望する267名（23%）、検討中372名（32%）、希望しない527名（45%）であった。希望すると検討中を合わせると、639名（55%）であり、約半数は対象者と考えられる。さらに、昨年は12年以上を対象としたことから、調査結果を絞り込む、と12年以上は、希望する104名、検討中130名であり、合計234名が対象者と考えられる。

次年度に向けては、今回の受講ニーズ調査をもとに実施の検討を行い、より速やかな実施準備、受講者への周知および確保、上進者の増加、円滑な運営を検討していきたい。

そのためにも、両大学での連携強化を行い、大阪府下の大学への協力要請なども試みていきたいと考える。